

令和6年度第1回生体機能解析産業研究会

「がんの検出、診断技術の開発から社会実装へ」 開催のご案内

(2024.9.4 更新) 講師江口氏のご都合により、講師を森氏へ変更することとなりました。

(2024.9.6 更新) 懇親会について、会費および終了時間を変更いたしました。

産業技術総合研究所四国センターでは、高齢化に関連する疾病による機能低下や治療の機序解明、機能低下予防に関する食品等の産業利用など、異分野を跨いだ研究連携、産学連携を目的として、令和2年2月に「高齢化と生体恒常性研究会」を設立し、交流会を開催してきましたが、令和5年度、産学官連携のプラットフォームとしての活動を強化するため、四国工業研究会内の組織として位置づけるとともに、名称を「生体機能解析産業研究会」に変更いたしました。

今回、産学官における**最新のがん検出等の研究に関する知見を共有し、関係者間の新たな連携の創出を図ることを目的に、「がんの検出、診断技術の開発から社会実装へ」をテーマとして令和6年度第1回研究会を開催いたします。**本件に関心をお持ちの方のご参加を心よりお待ちしております。

【日時】令和6年9月27日（金）13:00～16:50 ※**参加費無料** 終了後、懇親会（会費1,000円）

※適格請求書の発行はできません

【場所】①産業技術総合研究所四国センター（香川県高松市） ②Web会議システム

によるハイブリッド形式で実施予定（裏面参照、申込時に選択ください）。

※席に限りがございますので、お早めにお申し込みください。

【主催】四国工業研究会

【共催】産業技術総合研究所四国センター

【プログラム】

13:00 開会挨拶

13:05～14:05（質疑応答含む）

「研究用から検査用に：NGSを用いた遺伝子パネル検査が生まれるまで」

株式会社理研ジェネシス バイオインフォマティクス部 部長

北海道大学病院 がん遺伝子診断部

客員教授

鷲尾 尊規 氏

14:05～14:35（質疑応答含む）

「ISO 24421:2023（生物試料のフォトメトリック法における光シグナル測定の最小要求事項）の概要紹介」

産業技術総合研究所 健康医工学研究部門細胞機能解析研究グループ 研究グループ長 中島 芳浩 氏

14:35～15:05（質疑応答含む）

「炎症環境における上皮間葉転換の誘導制御機構」

産業技術総合研究所 健康医工学研究部門細胞機能解析研究グループ 主任研究員 田部井 陽介 氏

15:05～15:15 **休憩**

15:15～16:15（質疑応答含む）

「国立がん研究センターにおける治療へ繋がるがん診断技術の開発」

国立がん研究センター・中央病院病理診断科 医長

森 泰昌 氏

16:15～16:45（質疑応答含む）

「ライフサイエンス業界における最近の研究動向とアカデミアに求められること」

大阪大学 共創機構 特任教授

坂田 恒昭 氏

16:45～16:50 閉会挨拶

17:00～19:00 懇親会

【申込先】<https://zoom.us/meeting/register/tJIqfu-orD0tGtYeVR2oy6Jfudbzxk-7dTbn>

【申込期限】 令和6年9月19日（木） ※会場参加のみ期限を設けさせていただきます



講演概要

「研究用から検査用に：NGSを用いた遺伝子パネル検査が生まれるまで」

株式会社理研ジェネシス バイオインフォマティクス部 部長
北海道大学病院 がん遺伝子診断部 客員教授 鷺尾 尊規 氏

【概要】

NCC オンコパネルシステム TM は、2019年6月に日本で始めて保険適用された遺伝子パネル検査です。この検査システムは、大まかに次の4つの要素から構成されています。(1)キャプチャー試薬、(2)次世代シーケンサー本体、(3)解析ソフトウェア、(4)データベース。研究用として開発されたこれら4つの技術が、検査システムとして統合されていった歴史的推移をご紹介します。

「ISO 24421:2023（生物試料のフォトメトリック法における光シグナル測定の最小要求事項）の概要紹介」

産業技術総合研究所 健康医工学研究部門細胞機能解析研究グループ 研究グループ長 中島 芳浩 氏

【概要】

生物発光、化学発光、蛍光等の光計測は、バイオテクノロジー分野での分析において必須の計測手法となっています。またその産業利用において、計測値の比較互換性や再現性の向上は重要な課題です。本発表では光の正確な測定をサポートするための最小要件を規定した国際規格 ISO 24421:2023 の概要と要求事項についてご紹介いたします。

「炎症環境における上皮間葉転換の誘導制御機構」

産業技術総合研究所 健康医工学研究部門細胞機能解析研究グループ 主任研究員 田部井 陽介 氏

【概要】

上皮間葉転換（EMT）は上皮細胞が間葉系細胞様の形質を獲得する現象であり、細胞の運動・浸潤性増大や薬剤耐性獲得を誘導するなど、がん悪性化の一因とされています。本発表では、炎症性サイトカイン IL-1 β によって誘導される EMT とその制御機構について、我々が見出したシグナル伝達経路を中心にご紹介いたします。

「国立がん研究センターにおける治療へ繋がるがん診断技術の開発」

国立がん研究センター・中央病院病理診断科 医長 森 泰昌 氏

【概要】

がん治療の実践において分子生物学的な診断は重要な領域を占めます。近年、多くの腫瘍で特徴的な分子変化にもとづく新規のエンティティが明らかにされ、これらの診断分類から新たな治療方針が提案されています。本講演では、当院でのバイオバンクの運用やその試料を用いた研究レベルでの診断技術の開発の取り組みと個別化医療として社会実装されているパネル検査についてトピックスを含め解説します。

「ライフサイエンス業界における最近の研究動向とアカデミアに求められること」

大阪大学 共創機構 特任教授 坂田 恒昭 氏

【概要】

近年、ウェルビーイングという言葉が盛んに言われるようになり、ライフサイエンス業界も治療から予防へとということに目標をシフトしてきています。本講演ではライフサイエンス業界の最近の研究トレンドとアカデミアに求められること、また企業との交渉において留意することを概説いたします。

<お問合せ先> 産業技術総合研究所四国センター 産学官連携推進室
E-mail s-renkei-jimu-ml@aist.go.jp
TEL 087-869-3511 (代)